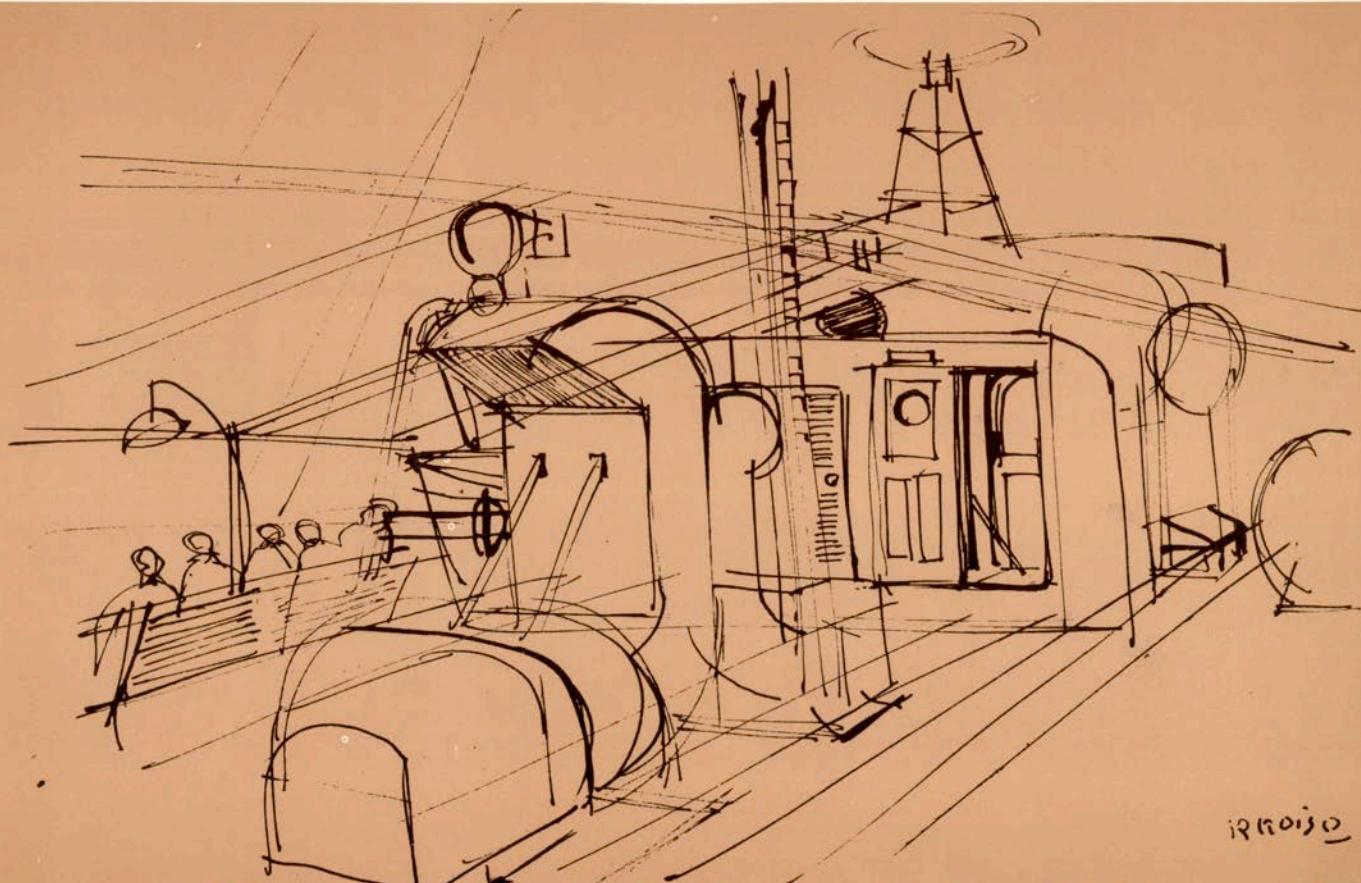


郷土を愛する人々の雑誌

神戸っ子

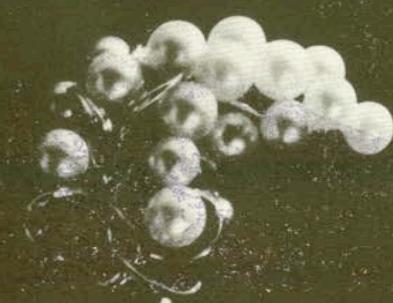
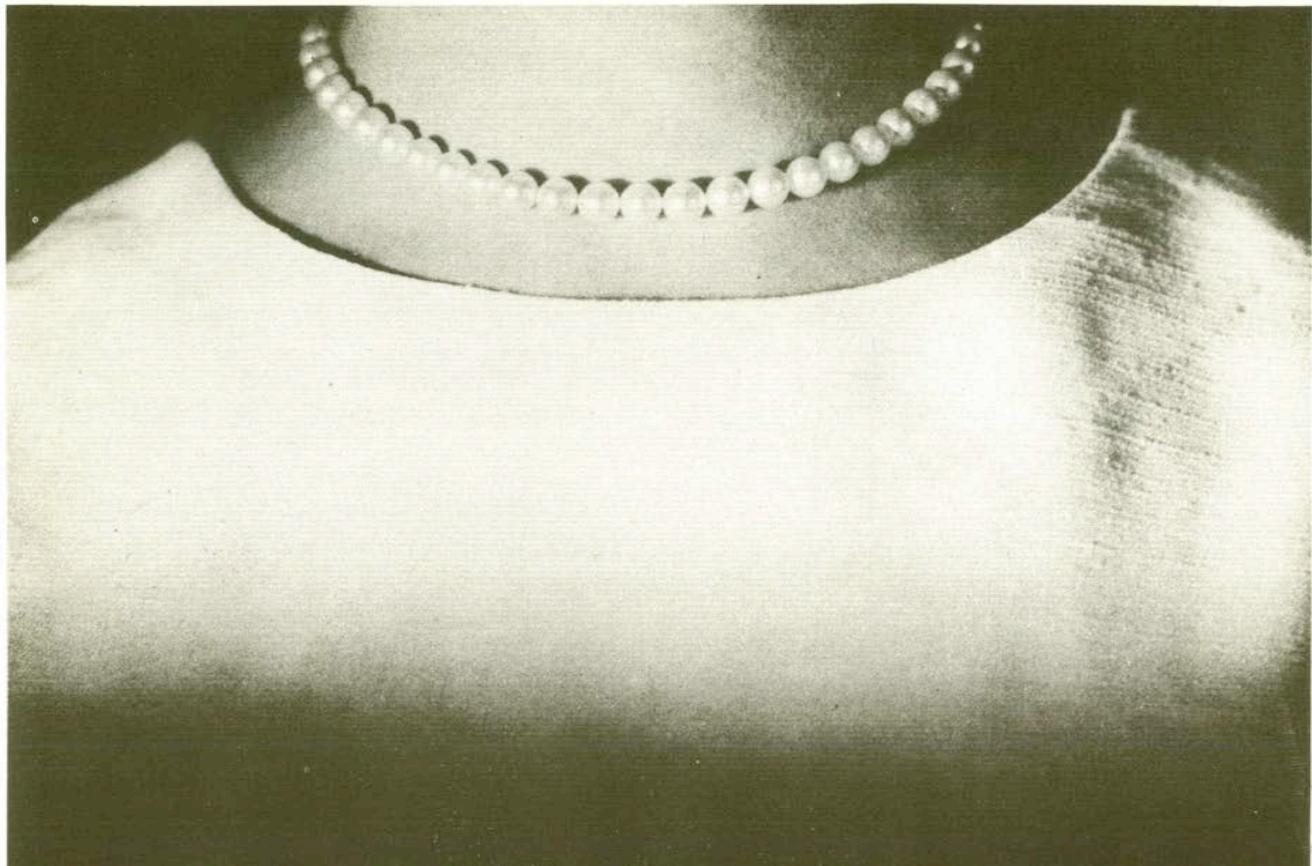
1962 / 11



1962.11

monthly magazine kobekko november 1962 no. 20

昭和37年11月1日発行 (毎月1回1日発行)



ミキモトパールは優雅な宝石です。
その永遠の輝きは、何代にもうけつが
れて愛されています。



御木本真珠店

本店・東京
銀座四丁目

神戸店=三宮・神戸国際会館 TEL(22)62
大阪店=堂島・新大ビル TEL(361)0220

これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です



神戸と女性

由美あづさ（女優）—花時計の前で—

かつて宝塚の可憐な娘役として活躍していた由美さんは劇作家花登篠夫人となつた現在も、往年の面影を感じさせてくれます。『笑いの王国』では、宝塚から映画のキャリアもあって中堅スターの貫禄を見せ、舞台にTVにと大活躍です。現住所は豊中市東豊中町二丁目九四ノ五（カメラ・米田昌弘）



大阪ガス

日本ではじめて完成したガス熱蔵庫



あったかい
できあがりを
(パーフェクト・ストック)
完全保存

いつもあたたか

いつもあったかいお料理が召
しあがれます / 細菌の効果が
あり、食中毒の心配もなくな
ります / いろんなお料理がス
トックでき、食堂・レストラ
ンなどでは営業能率が増進で
きます。

ご家庭から食堂・レストラ
ン・学校・病院などガス熱
蔵庫は広くご利用いただけ
ます。

OSAKA GAS
ガス 热蔵庫

正価43,000円 10カ月払1回4500円



11月 目 次

- 1 神戸と女性／由美あづさ
 - 5 隨筆／神戸と松方コレクション・青木重雄
 - 8 連載隨想談話第4回／布引の紅葉・白川渥
 - 13 れんさい隨想／④
神戸のこと手当り次第・淀川長治
 - 16 連載問わず語り／⑧
徳川家康・司馬遼太郎
 - 20 私の好きなスター／石井好子さん・小寺巖
 - 23 野のはな対談／すてきなお嬢さんこんにちわ／
きく人・岡部伊都子
 - 26 芸術の秋の装い・福富芳美
 - 28 秋のSHOPPING
 - 31 連載／女性あちらコチラ・パリの女性
(2) 鴨居玲
 - 32 座談会／神戸の文化をどう創る・宮崎辰雄・吉
村一夫・赤根和生・沼岬雨・松井高男
 - 38 びんくこーなー(T)
 - 40 神戸うまいもの地図・ランチタイム
 - 42 タイガース隨想／吉田義男・村山実・合田督
 - 52 KOBEKKO SHOPPING GUIDE
 - 56 ショート・ショート／⑧天罰・陳舜臣
 - 59 表紙のことば／小磯良平
 - 60 編集後記
- 表紙・小磯良平／写真・米田昌弘・米田定蔵
コピー・五十嵐恭子／デザイン・橘昭三



ゆたかな暮らしに
宝石をプラス

宝石を磨きつづけて…

25年

直輸入 宝石・貴金属・ゴルフカップ

タニジ

神戸宝石トアロード店

宝石のことなら何でも安心してご相談できる
神戸宝石トアロード店にお立寄り下さい。

トアロード国鉄高架北100米東角/10時~7時(月曜休)/TEL③2397

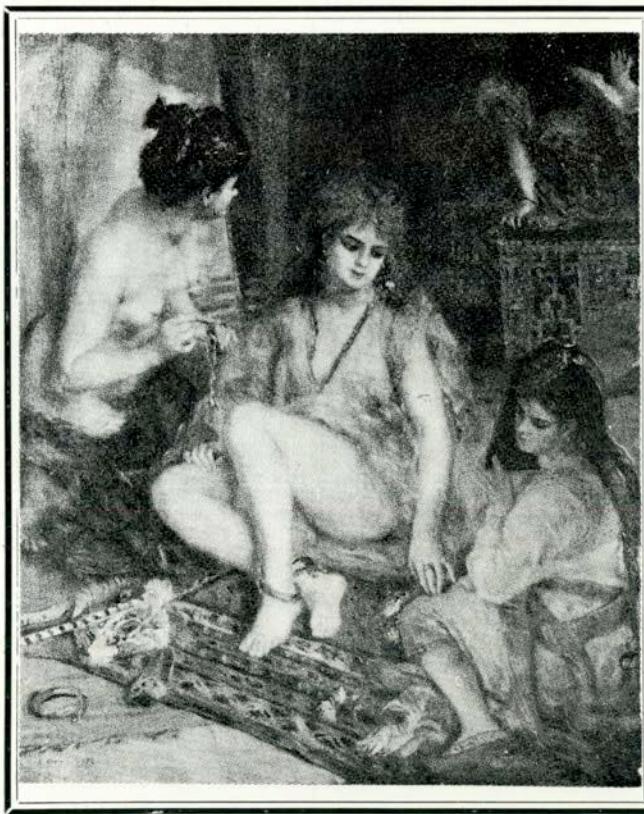
青木重雄

神戸と松方コレクション

松方コレクションの松方幸次郎さんは、ちょっととした「謎」に包まれた人である。松方コレクションが今日ではすでに多少伝説めいた角度から語られるようになってゐるからもあるが、最初は花やかなバラ色の栄光にか

こまれていた氏自身が、昭和初年のバニックのため、そのほとんどを手放してしまったという悲劇的な経過にもドラマチックな感じが伴なつてゐるからだろう。といつても、氏は昭和二十五年まで生きていたのだから、それほど古い昔の話ではないのだが……。

松方さんは明治の元勲松方正義公爵の十三人の男ばかりの兄弟のうちの第三男だった。九男の正熊氏の次女春子さんはライシヤワー夫人だから、春子さんからうと幸次郎氏は伯父さんというわけだ。この伯父さんは若い時から進取の気性に燃えていた。



ルノワール「アルジェリア風のパリの女たち」

大学予備門（後の東大）に在学中からアメリカへの留学を思い立ち、父に頼んで明治十四年にエール大学へ留学した。ここで得た日本人の苦学生の友人が、後日有名な共産主義者片山潜

だったのも面白い。五年間の留学が終わると、さらにフランスへ回り、パリのソルボンヌ大学に学んだ。ここでまた竹馬の友黒田清輝と顔を合わせた。黒田も同じ鹿児島の名門に生まれ、一族には十九年伊藤博文に代つて二代目首相になつた黒田清隆がいた。文明開花の明治文化の吸收につくした人々にはふしきに薩長土の出身者が多かつたが、洋画家にも黒田清輝のほかに薩摩出身の岡田三郎助、有島生馬がいた。黒田はもともとは政治学者

秘書官となつた。この青年秘書官が、同郷の薩摩出身で当时神戸川崎造船所の社主であった川崎正蔵氏の乞いを容れて初代株式会社川崎造船所社長に就任したのは二十九年十月である。同時に川崎正蔵氏が手掛けた神戸新聞（三十一年二月十一日創刊）にも数年後社長として迎えられた。元来経済人であると共にまた政治家への熱意にもあふれていた松方さんとしては、新聞経営もまんざら縁遠い仕事ではなかつたらしい。その後大正九年まで神戸新聞社長を兼任していた

が、新聞社には代理人を出して自分はほとんど出なかつた。だが、川崎造船の方

はますます隆盛になり日露戦争や大正七、八年の第一次世界大戦で未曾有の好景氣を迎えた。

「戦争大成金」になつた松方さんが、好景気でもうけたポケットマネイ三千円を持ってヨーロッパの美術品を買いに出かけたのは大正五年だつた

それより以前の明治三十五年にも歐米の造船業視察の旅に出てゐるから、いわば第三回目の海外旅行だつた

だが、大正五年の旅行は美術品収集が第一目標とはなつてゐたが、一説によると、それは第一次世界大戦で敵に帰国後創設された東京美術学校の洋画科の指導者となつたのを皮切りに、同志と白馬会を作つたりなどして日本近代洋画の確立者となつたが、こういう友人を持つていたことが、松方さんに松方コレクションを集めさせる原因の一つとなつたともいえるだろう。

明治二十二年帰国した松方さんは、二十四年春明治天皇の大命を拝して父が内閣総理大臣となると共に、首相



ロダン「接吻」

田友次翁（元山中商会専務、現在宝塚居住）の話によるところ、完全なデマのようだ。やがてこれにつづく大正十五年の渡欧で松方コレクションの一萬点（絵画、彫刻

二千点、浮世絵の買取戻し八千点)がいろんな協力者の努力で集められたことはまことにすばらしい収穫だった。太っ腹の氏が買いつ放し、ヨーロッパに置きつ放しにしてため目標もなく、なかには焼失したものもあっていまだに全作品の完全な内容は謎となっているが、わかつているだけでも、十九世紀から二十世紀初頭へかけてのヨーロッパ巨匠の傑作が数多くあるのだから立派なものだなかにはつまらぬ作品もまじっていたことはたしかだが



クルーベ「肌ぬぎの女」

これだけ名作があれば文句はつけられない。

ところでこの世界的コレクションの名品のはとんどがわずか二年後にはバラバラに分散させられる運命にあつたとは皮肉である。昭和二、三年のバニックでついに川崎造船所が倒産しかけたのだ。そのため、松方さんはついに三年の五月辞職、自分の作ったガントリーン・クレーンを仰ぎながら涙をのんで造船所から去つて行つた。取引先の十五銀行は取りつけさわぎにたまらず、同コ

レクションの名作をどんどん競売に付した。
おかげで、フランスに残してきた四百点がそのまま土つかずについたことが不幸中の幸だったともいえる。だが第二次世界大戦の爆発とともにまたまた新しい災難が襲いかかった。

日本敗戦によつて四百点はフランス政府に没収された戦後まで生きていた松方さんの気持はどんなに複雑だったことだろう。

ところが、フランス政府の好意と日本の熱意が実を結んで三十四年春、めでたく四百点のうち約三百七десятが返ってきた。このかげにド・ゴールや作家アン・ドレ・マルロー(文部大臣)と親交のあつたわが神戸出身の故小松清氏などの努力があつたことを忘れてはならない。

今度、神戸白鶴美術館(開催期間は十月二十日と十一月四日)で公開された松方コレクションの七十余点は、西洋美術館から借りたこれらの作品の一部である。

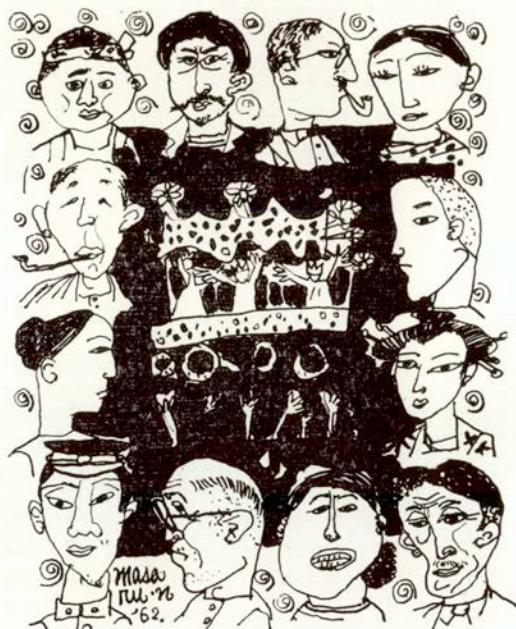
思えば、松方コレクションも數奇な運命をたどった名コレクションといえる。今日、残された三百七十余点と国立博物館所蔵の浮世絵八千点こそは、波瀾の時代を生き抜いた名品ともいえよう。

川崎の好景気時代に神戸の山本通に住んでいた松方さんが、毎日馬車に乗つて悠々と造船所へ通つていた『絵本のようない出』(田宮虎彦氏談)とともに、かがやかしく、またいくぶん神祕めいた同コレクションへの追憶は美術愛好家の胸からいつまでも忘れ去られることはないだろう。(筆者は神戸新聞論説委員・調査部長)

紅葉の布引

白川
え・中
西

渥勝



——ことしは第30回目のみんなとの祭でして、十月二十二日にみなと祭の諸行事を終えた訳なんですが、市民の間で、内容が毎年同じで変わりばえがないとか年に一度のみなと祭なんだから、もと市民が楽しみ、親しめるようなお祭りであってほしいという声が多いようですが——

「みんなの祭り即ち市民の祭りなんですが、市民の祭りという盛り上がりは少ないようだね、毎年、花電車、国際行列、それに懐古行列ときまつていて、そんな役所的行事のようなものだけがルール通りに終ればいいと云うような形式的な祭りになってしまふ市民祭準備委員会というようなものの構成メンバーも、もう一つ形式的だ型通りのお偉ら方だけではなくて、もう少し若い人たちにもはいってもらつて、その人たちのアイディアも聴いたらどうだろう。それと毎年のきまつた行事の他に、その年その年の新しい趣向の行事を

一つぐらいづつ盛り込んでマンネリを打破するんだナ。それにはやはり各層からアイディアを集めなくっちゃ。……そのために新聞社や、ローカル放送などで、いいアイディアの懸賞募集をやってもらつてもいいナ。神戸のような街のお祭りには、伝統的行事と共に何か新しい意匠も工夫したいもんだネ。とにかく、市民祭りに市民が受身では駄目ですよ。市民自らが参加しての楽しいお祭りにしなくつちや意義がない。楽しいお祭の要素として、見る阿呆と共に、踊る阿呆も必要なんだ」

——たしかに現在のみなと祭は、市民が見物するというだけの受身の方向なんですが、どんな行事がいいと思われますか——

「原始の時代から、祭りには踊りがつきものだ。いまの行列にはこの要素がない。阿波の祭りが盛大なのはそのためだと思うね。阿波踊りに少し近代的センスを加味したような「みんな踊り」を募集したらどうだろ？むろん、芸者衆がやるようなあんなむつかしい振付けのものは駄目だ。さいわい、神戸にはステージ化出来るメソ・ストリートがある。元町、センター街、新開地。：あの通りなら交通機関の邪魔にもならない。あの長いアスファルトをステージにして、商店街でレコードをかけて、誰でも飛び入りに参加するんだ。さし当たり、フォークダンスなどどうだろう？」

神戸にはちゃんとしたフォークダンスの協会があるんだから、あのメムバーに一肌脱いでもらえばいい。いつか六甲山上でたのしそうにやっているのを見たが、お祭りのときだけ下界へおりてもらいたいものだナ。とにかく阿波の祭りは市民がみんな演技するからいいんだ。踊る阿呆がいるからだと思うナ」

——みなと祭も終って、秋もいよいよ深くなり、旅行のシーズンになりましたが、秋の旅行はいかがでしよう——

「秋の旅行は山国がいいね。とりわけ信州の紅葉が印象的だ。志賀高原へはよく家族でスキーに行つたが、あの辺の山は落葉樹と常緑樹がはつきり朱と緑に分かれて、梅原龍三郎の極彩色の絵を見るようだ。でも、近頃の旅行ブームで、どこへ行つても混雑だ。ホテルは夏から予約しなくてちやいけないんだからね。……だから

ぼくはラッシュ時を避けてシーズン・オフをねらっている。つまり時差旅行だな。去年、暮れの十二月二十日頃から長崎、雲仙、阿蘇などを廻ってみたが、この国際観光コースでさえ、乗り物も宿もゆうゆうとして本当に楽しめましたよ。

それとよく言わることなんだが、山国の宿で不味いさしみやテキを出されることね。全く芸のない話だ。信州では鯉コクと野沢菜とリングだけいいナ。阿蘇では、阿蘇高菜と言う漬け物がうまいサシミやテキを出さねば宿の儲けにならんそうだが、元価の安い土地の山菜や川魚を少し高く売ることにすれば、元価計算は成り立つ客の方も宿泊費が安くなるわけだ』

——確かに神戸肉や内海の魚になじんだわれわれ神戸っ子には、旅先でのあの型通りの食膳には閉口しますね。それにしても、こう観光地が混雑しては、秋が来ても、見物どころじやありませんね。

「宍粟郡の音水（おんずい）の紅葉の渓谷は、おそらく関西第一だろう。しかし、もっと手近なところで、裏山の紅葉だってバカにならんよ。布引の滝のすぐ上方、つまり、神戸カントリークラブのゴルフ・コースの一角に、山櫨（やまはぜ）の群落があるんです。この群落は貴重なものですよ。六甲の宝と言つてもいい。樹令は百五十年から二百年ぐらいのもので、これが紅葉すると、じつに素晴らしい。コースの拡張でこれを切りとると言う話をきいたんで、マネージャーにかんべんしてもらった。

ハゼの紅葉は、カエデとちがって、じつに鮮烈で豪華なんだ。ただ残念なことに、期間が短くて一週間程なんですがね。とにかく、三宮のターミナルから、わずか二十分そこそこで、こんな珍しい紅葉の群落にお眼にかかるなんて、やはり神戸はいいですよ』

（作家）

マロングラッセは ヒロタの銘菓

新栗のマロングラッセをどうぞ

元町通三丁目 TEL (3) 二二三一四〇番

世界中の人からほめられた
日本の誇り 神戸のほまれ



北村パール

北村真珠株式会社

神戸／元町2・東京／スキヤ橋ビル
TEL (3) 0072 (571) 8032



世界のめがねがやって來た

神戸眼鏡院

元町 3・電③3112-3・0551(貿易部)



神戸 元町三

創業 明治三十年

風月堂

T E L. 神戸 ③ 695・696